

遊びの中での 主体的・対話的で深い学び



目次

発刊にあたって / 「遊びの中での主体的・対話的で深い学び」について 2

● 記載事例

| | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 子どもが夢中になって遊ぶ環境づくりをめざして～かかわる力をはぐくむ～ | 宮城教育大学附属幼稚園 3 |
| よく遊び 伸びる子を育むために | 宇都宮大学教育学部附属幼稚園 4 |
| 主体的・対話的で深い学び—共に創り出す学びの過程— | 山梨大学教育学部附属幼稚園 5 |
| 幼児期の教育における主体的・対話的で深い学びを探る | 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 ... 6 |
| 主体的に生活する子どもを育むために | 大阪教育大学附属幼稚園 7 |
| 子供のよさが学びにつながる保育 | 兵庫教育大学附属幼稚園 8 |
| 主体的・対話的な学びをはぐくむ環境 | 香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎 9 |

● コラム

新幼稚園教育要領の実施に向けた「主体的・対話的で深い学び」 河合優子調査官 10

● 平成30年度全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧 11

発刊にあたって

今年3月には、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改訂(改定)され、いずれの施設においても質の高い幼児教育・保育が求められるようになりました。幼稚園部会では、全ての学びの基礎として重要な「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあてて研究を行い、ここにリーフレットをまとめることができました。ご指導・ご助言をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。各園では、心躍らせながら生き生きと遊び、生活する幼児の記録から「主体的・対話的で深い学び」の姿を捉え、また、それをさらに深めるための環境構成や援助について探りました。全国から収集されたどの報告書にも、生き生きと主体的に学び、他者と対話し、関わりを深めながら、集中・没頭していく姿や、そのプロセスにおける保育者の環境構成や援助が描き出されています。国立大学附属幼稚園では、これからも、先導的な試行を行うと同時に、他の幼児教育施設とこれらの姿を共有し、学び合いながら、教育・保育の質をさらに高め、未来の担い手である幼児の資質能力を育ててまいります。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会会長

岩立 京子

「遊びの中での主体的・対話的で深い学び」について

全国の国立大学附属幼稚園で取り組んできた「遊びの中での主体的・対話的で深い学び」に関する研究成果を紹介します。

改訂された幼稚園教育要領は、幼児が「様々な人やものとのかかわりを通して、多様な体験を」していく際、「幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにする」ことの重要性を指摘しています。幼児の多様な体験を、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に関連させながら「真正の学び」へと誘っていく必要性が強調されているわけですが、実際に活動を展開していくとすると、いくつかの困難に遭遇することになります。

まず、保育の中で自明のことと考えられてきた「主体的」「対話的」という言葉が、実際にはかなり多義的に使用されていることに気づきます。そして「深い学び」とはいったいどんなレベルの学びを指しているのか、その「深さ」の基準も気になります。あるいは、その三つの「学び」を絡めながら実践を展開しようとする際、保育者がどんな役割を果たしていくことが大切になるのかと、明らかにしなければならない課題が数多く存在しているのです。

このリーフレットの中には、そんな疑問を明らかにすべく研究的に実践に取り組んできた国立大学附属幼稚園の研究成果が整理されています。これらの研究成果が、幼児の「主体的・対話的で深い学び」を創造する実践の、豊かな広がりの一助になれば幸いです。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会調査委員長

加藤 繁美

子どもが夢中になって遊ぶ環境づくりをめざして～かかわる力をはぐくむ～

本園の経営方針の一つとして、「主体的な遊びを通して、幼児一人一人の望ましい発達を図る」ことを掲げている。また、附属四校園の取組として、『「かかわり合う力」をはぐくむ』を連携研究テーマとして共同研究を進めてきた。主体的な活動と対話的な活動は、日々の遊びの中で総合的に展開されるものであり、子どもたちが夢中になって遊びこむことによって深い学びへとつながっていくと捉え、幼児の主体的な遊びを促す環境構成や協同して遊ぶ経験を重視した保育をめざし、実践に取り組んでいる。

研究主題「子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助」から

「子どもが夢中になって遊ぶ」とは

- 意欲をもって主体的に活動すること
- 明確に目的や目標をもつこと
- 自ら進んでアイデアを出せるようになること
- 遊びを深めていくこと
- 遊びの様子が発展していくこと

附属校園連携研究テーマ「『かかわり合う力』をはぐくむ」から

「育てたい資質や能力」

- 「もの」「こと」に対して、興味・関心をもちながら、物事の本質について追及していこうとする資質や能力
- 周囲の「ひと」と主体的にかかわり、自ら働き掛けることで健全な人間関係を築いていこうとする資質や能力

「きもち」「体の動き」の視点からの実態調査と手立ての検証

めざす幼児の姿の具現化に向けて

かかわりを意識した計画的な取組



主体的に遊ぶ環境とその援助

- ★ 幼児の発達や興味・関心に応じた用具や素材の準備や意図的な計画的な活用
- ★ 四季折々の自然環境を生かした園庭整備や物的・空間的な環境構成
- ★ 幼児の実態把握と「きもち」を高めるための具体的な手立ての検証、環境の再構成



協同して遊ぶ経験の重視

- ◆ 「一人の学び」から「学級・学年の学び」さらに「異学年との学び」へ人間関係を広める遊びの展開
- ◆ 「好きな遊びの時間」や「お日さまタイム」での発達段階に応じた話し合い活動の重視
- ◆ 調べ活動や追求活動への支援



連携に伴う交流活動の充実

- 附属小・中学校、特別支援学校との交流
- 学生ボランティア、ハワイ大学学生との交流
- 園行事での地域住民との交流

深い学び

イメージの共有化
遊びの広がり
新たな遊びへの挑戦

自己有能感
満足感 達成感

コミュニケーションを図ろうとする意欲
互いのよさを認め合う心情

安心感・信頼感・心の開放

よく遊び 伸びる子を育むために

幼児教育における遊びは、それ自体が「主体的・対話的で深い学び」であると言える。新しい幼稚園教育要領の公示をふまえ、本園では、遊びの充実とそこにある学びとの関連に目を向け、考察を深めている。これにより、就学以降の教育につながる幼児期の経験を、より確かなものにしていこうと試みているところである。以下に、その研究の一端を紹介する。

よく遊ぶ

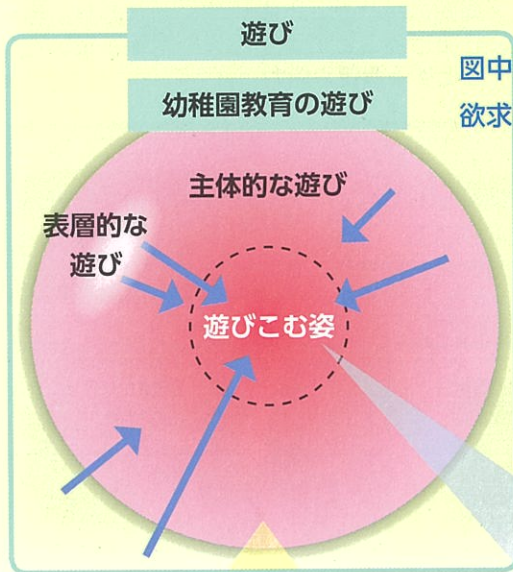
自らの心を次々に動かし、その幼児なりに遊びを
発展・充実させていく

伸びる

豊かに心を動かす資質・能力をもち、生涯にわたる
学びの基礎を身に付けていく

「遊び」の定義を見つめ直す

幼児の「もっとやりたい」という姿を視点とし、
以下のように図式化した。



図中の矢印は、**自発性の発揮**（子どもの内からの
欲求によって行動が起きる状態）を示している。

主体的な遊び：自らの意思が反映され、幼児の
主体性に支えられているような
状態にある遊び。

表層的な遊び：一見遊んでいるように見えなが
らも、実は心動かさずして冷めた
状態になっている遊び。

自発性の発揮を支えるために

幼児期に必要な経験を捉えるために

「もっとやりたい」を支える要因を探る

遊びこむ姿にある学びを探る

- ・自発性の発揮を支えている要素を、
外的環境、内面的な要因という2つ
の視点から考察する。
- ・教育課程に照らし、発達段階による
質の違いについて考察する。

保育の質の
高まり

- ・事例検討を通して、遊びの中にある
学び（深い学び）について改めて見
つめ直す。
- ・遊びこむ姿を支える保育の在り方
について考察する。

遊びこむ姿に

学びの土台を確かなものに



主体的・対話的で深い学びー共に創り出す学びの過程ー

本園では、子供は自ら願いや目的をもち主体的に遊びや活動をすすめて、生活を創り出す園生活の主人公であるとしてらえている。一人一人が環境との出会いの中で心を動かし、その子なりのおもしろさをふくらませ、ものや人、そして自分との対話を繰り返しながら、園生活を自ら創り出すことを目指している。心躍らせ生活する中で、主体的に自分なりの願いや目的を見出し、また、互いを尊重し多様性を認め合うことで仲間との対話を、そして、試行錯誤し探究することでものとの対話を重ねていくことで、その子なりに意味や関係を編み直したものを仲間とつなぎ紡ぎながら、共に創り出す学びへと誘っていきたいと考える。

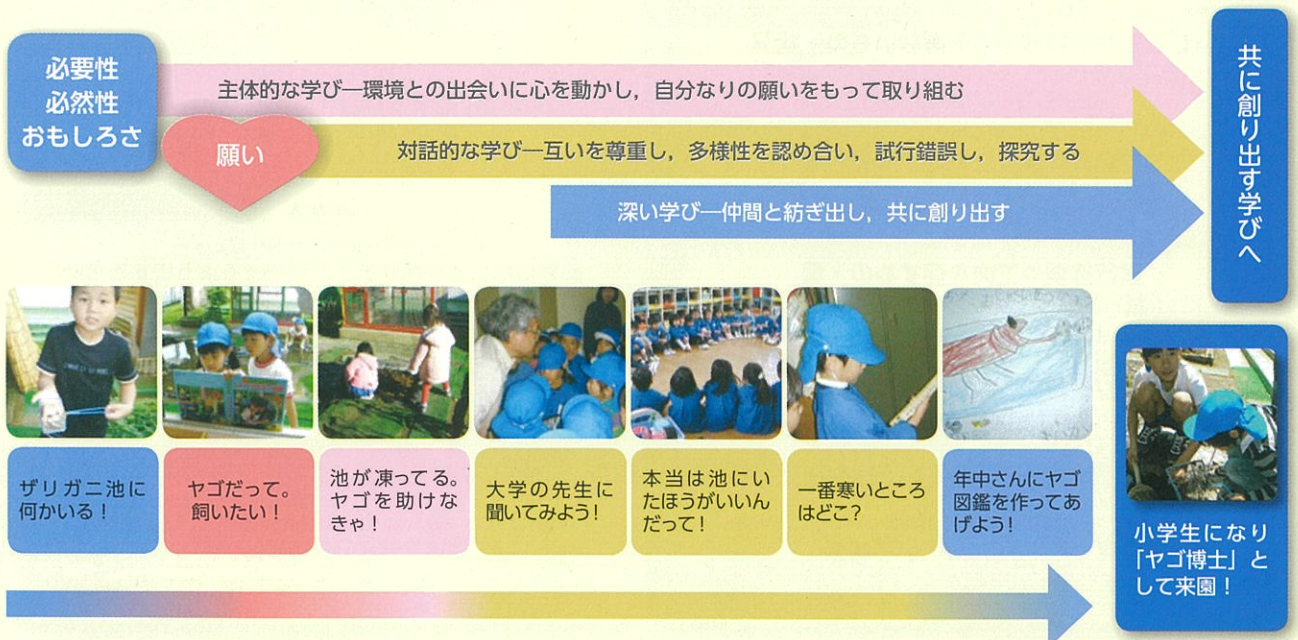
「学び」のとらえ

もの・人・自分との出会いや対話によって、その子なりに意味ある世界づくり・仲間づくり・自分づくりから、意味や関係を編み直していく過程を「学び」ととらえる。

参考文献：「学び」から逃走する子どもたち 岩波ブックレット 佐藤学著



主体的・対話的で深い学びー共に創り出す学びの過程ー



幼児期の教育における主体的・対話的で深い学びを探る

本園では研究テーマを「幼児期の教育における学びを探る」と設定し、平成27年度は副題を「～生じた課題に対し、主体的・協同的に学ぶ姿(アクティブ・ラーニングの視点から)～」，平成28年度は「～主体的・対話的で深い学びを促す環境の構成と教師の援助～」として、研究を行ってきた。以下はその2年間の研究の要素を簡単にまとめたものである。



主体的・対話的で深い学びを行っている幼児に見られる 学びの傾向

感情体験

課題が生じた時から解決するまでに生じた感情の体験

他者理解

他者との違いや同じことを知り、つながろうとすること

思考

思ったり考えたりすること

知識・技能の活用

既存の知識や技能を活用すること

思いの表現・共有・調整

自分の思いを表現したり友達の思いを聞いたりしながら思いを共有したり、調整したりすること

主体的・対話的で深い学びを促す 環境の構成

心情を支える環境

安心して取り組めたり意欲をもったりできる環境

ひとつとかわらざるを得ないもの・状況

友達とかわらざるを得ない遊具や道具、及び場の状況や雰囲気など

ひとつとかわりやすいもの・場

友達とかわりやすいああい遊具や道具、及び場の状況や雰囲気など

試行錯誤や工夫を促すもの・場

試行錯誤や工夫を促す遊具や道具、及び場の状況や雰囲気など

イメージや目的の共有を促すもの・こと

イメージや目的の共有を促す遊具や道具、及び場の状況や雰囲気など

思考を促す情報

見て考えることができる情報

主体的・対話的で深い学びを促す 教師の援助

心情を支える

安心して取り組めるようにしたり、意欲をもたせたりするような援助

周りをつなぐ

他者の存在を認識できるようにしたり、代弁したりするような援助

見守る

側で幼児の様子を見取りながら、必要に応じてかかわることができるようにする援助

思考を促す

考える情報を与えたり、敢えて手を貸さなかったりするような援助

協同を促す

状況の整理・焦点化・思いや考えの共有を促す援助

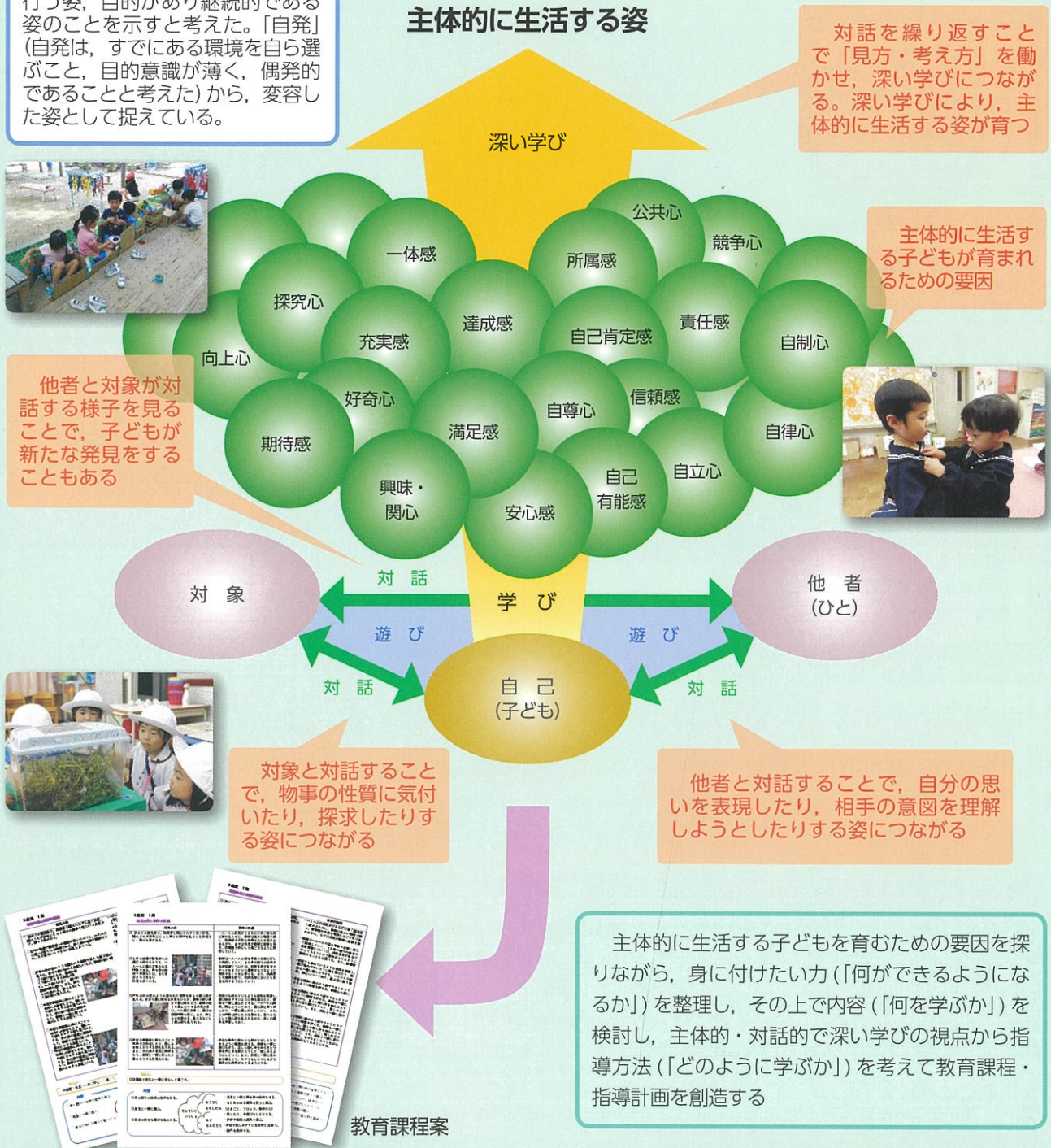
主体的に生活する子どもを育むために

本園では、「主体的に生活する子どもを育むための教育課程の創造」というテーマのもと研究を進めている。様々な事例を検討する中で、主体的に生活する子どもを育むためには、子どもが他者や対象と遊びを通して対話することで、学びが生まれ、それを繰り返すことで、深い学びへとつながっていくのではないかと考えた。主体的に生活する姿が育まれる要因には、様々なものがあり、主体的・対話的で深い学びが実現することで、主体的に生活する子どもが育つと考え、その視点から教育課程・指導計画の作成に取り組んでいる。

本園が考える「主体的」とは

「主体的」は、自ら考え進んで行う姿、目的があり継続的である姿のことを示すと考えた。「自発」（自発は、すでにある環境を自ら選ぶこと、目的意識が薄く、偶発的であることと考えた）から、変容した姿として捉えている。

主体的に生活する姿



子供のよさが学びにつながる保育

本園では、保育の質を高めることを目指し、記録を手掛かりに職員間で話し合いを行ってきた。様々な見方や読み取りから子供のよさや育ちの可能性を共有していくことで、子供のよさが生かされ学びにつながる保育の展開が可能となるのではないかと考え、研究を進めている。

〔5歳児の恐竜ランドづくりから〕

異年齢児と過ごし、玩具や遊びの場を自分の思いのまま使って遊ぶことが多いH児

よさの読み取り

興味あることにじっくりと取り組み、身近な材料を使って、自分なりに考えながら製作を進めるH児

よさが生かされる環境と援助を

- ・興味をもっていた折り紙の本を置いておく など

折り紙での恐竜づくり



・作り方を理解しながらじっくり取り組む

学級によさが伝わる環境と援助を

- ・折り紙を学級に紹介する
- ・折り方を教える機会を設ける など

興味をもった仲間と



「恐竜ランドをつくらう」



・目的をもって、意欲的に粘り強く取り組む
・興味をもった仲間と共に、試行錯誤しながら進める

学級で遊びが共有される環境と援助を

- ・遊びの場を保育室に確保する
- ・恐竜の絵本や図鑑を置く など

立体的な恐竜を



ジェットコースターも



共通の目的をもって取り組める環境と援助を

- ・学級で話し合いの機会を設ける など

学級の仲間と相談しながら



暗くて怖い恐竜ランドに



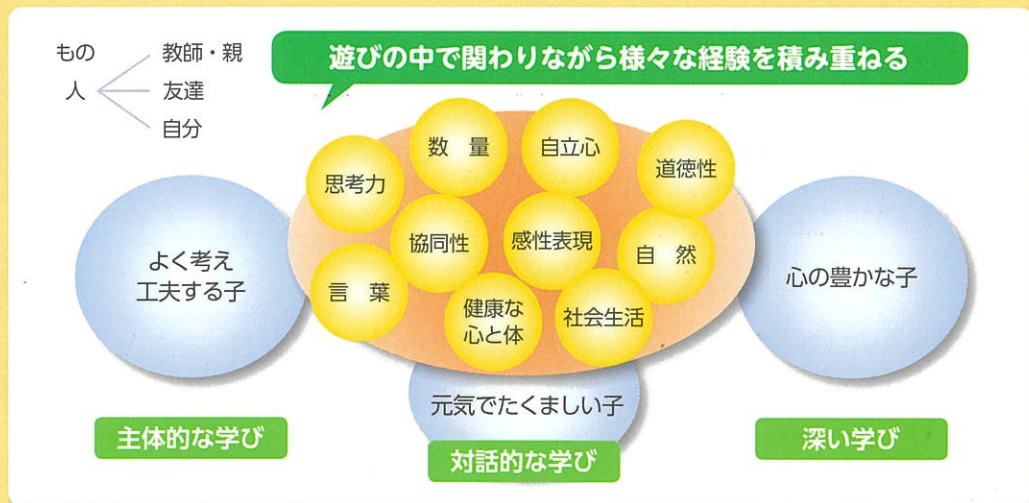
・学級の仲間と共に、共通の目的と見通しをもって、活動を振り返りながら取り組む
・自分の考えを伝え、仲間の意見を聞きながら協力して進める
・試行錯誤しつつ、よりよい方法を探りながら工夫を重ねる

よさが生かされ
主体的・対話的で深い学びへ

主体的・対話的な学びをはぐくむ環境

本園では、子ども自らが自然や人に関わって遊び能動性を発揮しながら様々な経験をすることを大切に保育を進めている。遊びの中で他者と関わりながら様々な経験を積み重ねていき本園の教育目標である3つの姿を育てている。新教育要領で示されている「幼児期の終わりまでに育ててほしい力」を念頭に置きながら主体的・対話的学びがうまれる保育を進めていくよう心がける。

本園の 保育の考え



本園の捉える

主体的・対話的に学ぶ子どもの姿

主体的に学ぶ姿

- 興味関心を持ち「やってみたい」「こうしたらどうなるかな」を実現させようと粘り強く取り組む姿
- 自らの遊びを振り返って次につなげようとする姿

対話的に学ぶ姿

- 他者との関わりの中で自分の思いや考えを言葉や行動で伝え合い、考えが深まるようなやりとりをしようとする姿
- 相手が伝えようとするを感じ取りそれに応じようとする姿

入園後一度も声を発していないB児だが、兜の折り方を教える中で、積極的に話しかけてくれるC児に心を開いていく。「どこまで折るの?」という問いに対してB児の返事はないが、C児が折る様子を見て折れたことを確認してから次に進もうとする姿が見られた。



対話の芽生え

B児に教えてもらった兜を一人で作ろうとするC児。できた兜を真っ先にB児に見せに行ったのは、昨日仲良くなったB児に折れた喜びを伝えたかったのだろう。B児もその喜びに共感するように、静かにC児の話の話を聞いていた。

伝える・共感

数日後、C児は新しい兜の折り方を見つけた。そして、その兜を教師の知らない所でB児にプレゼントしていた。そのことをきっかけに二人の「兜博物館」が始まった。B児からの言葉はないが、楽しそうに創り上げている様子は、イメージを共有している姿そのものだった。

イメージの共有

主体的・対話的学びをはぐくむ環境と援助

環境

- 自分の居場所があるという安心感・安定感
- 一緒に試行錯誤できる友達の存在
- 「問い」が生まれ、話し合う必要性を子ども自身が感じられるような状況づくり

援助

- 今高めていきたい力を考えて、一人一人に合った声かけや関わりを考える
- 子どもを見守る時と助言する時を的確に判断する
- 子ども同士のつながりをつくるきっかけとなる

新幼稚園教育要領の実施に向けた 「主体的・対話的で深い学び」

文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官

河合 優子

「主体的・対話的で深い学び」は、子供たちが学校で「どのように学ぶか」という観点から、教師の授業改善の視点として新学習指導要領等に示されました。

環境を通して行う教育を基本としてきた幼稚園教育において、幼児は周囲の環境に思うがままに多様な仕方で関わり、思考を巡らし、諸感覚を働かせ、周囲の環境に様々な意味や関わり方を発見します。その中で、やってみたいことに繰り返し取り組み、やり遂げた満足感を味わうことを重ねていきます。また、幼児が互いに関わりを深め、皆でやってみたい目的に向けて工夫したり協力したりするようになる過程で、思いを伝え合い、新しいアイデアを生み出すなど、自分の考えを広げ、深めていきます。さらに、身近な環境に好奇心や探究心をもって繰り返し関わる中で、新たな発見をしたり、どうすればもっと面白くなるかを考えたりし、更に違う形や場面で活用しようとするなど、試行錯誤しながら取り組んでいきます。こうした幼児の姿は、幼児の自発的な活動としての遊びの充実を図ってきた多くの実践の中に見られるものです。そしてこれらの姿の中には、主体的・対話的で深い学びの実現につながるものが含まれていると考えます。平成30年度の新幼稚園教育要領の実施に向けて、ともすればこれまで無意識のうちに行っていたことを改めて意識化し、指導の改善を図っていくことが大切です。

一方で、指導の実際は、教師一人一人の主観や経験などに左右されやすい面もあります。だからこそ、園内研究などでテーマに向けて協働して取り組むことを通して、多面的に幼児を理解したり様々な視点から環境の構成や援助を考えたりし、指導の工夫改善を図ることが重要です。さらに、本リーフレットのように各園の研究をまとめたものを外部に発信したり、様々な知見から学び、各園の実践に反映させたりしていくことも大切です。教師自身も主体的・対話的で深い学びを積み重ねていくことが、質の高い幼稚園教育を支えていくのです。

今改訂により幼稚園から高等学校卒業までの子供の学びを「主体的・対話的で深い学び」という共通の文言で語り合うことができるようになりました。これは、幼稚園教育を他校種の教師に説明し共有する好機ともなります。また、互いの実践を共通の視点で捉え協議を行うなどの取組は、相互理解を図るとともに、学校教育としての共通性や幼稚園教育としての独自性を確認する機会にもなることでしょう。「主体的・対話的で深い学び」を視点として、幼稚園における幼児の学びを充実させるとともに、幼児一人一人の発達や学びを長期的な見通しを持って小学校以降につないでいくことを期待しています。

平成30年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

平成30年3月現在

| 幼稚園名 | 研究テーマ | 公開研究会等の期日 |
|--------------------------|---|---|
| 1 北海道教育大学附属旭川幼稚園 | 体験のつながりから遊びの広がりへ | 10. 6 (土) |
| 2 北海道教育大学附属函館幼稚園 | 幼児の「諸感覚を働かせながら試行錯誤する力」を培う遊びのプロセスの創造～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具現化をめざして～ | 7.19 (木) |
| 3 弘前大学教育学部附属幼稚園 | 幼児期の体づくり (3年次) ～健やかな心の育ちに着目して～ | 開催せず |
| 4 岩手大学教育学部附属幼稚園 | 豊かな遊びを育む (3年次) | 6.30 (土) |
| 5 宮城教育大学附属幼稚園 | 子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助～心の育ちと言葉の育ち～ | 10.17 (水) |
| 6 秋田大学教育文化学部附属幼稚園 | 自発的活動としての遊びを中心とする保育～子ども主体の生活を考える～ | 6.28 (木) 11.16 (金) |
| 7 山形大学附属幼稚園 | 遊びこむ子どもを育む | 6. 6 (水) |
| 8 福島大学附属幼稚園 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を探る (2年次) | 6. 8 (金) 6. 9 (土) |
| 9 茨城大学教育学部附属幼稚園 | 幼児期に育ってほしい姿をどう捉えるか | 11.22 (木) |
| 10 宇部宮大教育学部附属幼稚園 | よく遊び伸びる子を育むために～遊び込んでいく中での学びから教育課程を考える～ | 6.30 (土) |
| 11 群馬大学教育学部附属幼稚園 | 幼児の遊びが豊かになる園庭 | 園舎改築のため開催せず |
| 12 埼玉大学教育学部附属幼稚園 | 教育課程の具現化に向けて (3年次) —子どもの「たくましさ」を育てる保育— | 11. 7 (水) |
| 13 千葉大学教育学部附属幼稚園 | 遊びの物語を読み取る保育者～対話的な学びから育ちを捉える (2年次) ～ | 10.27 (土) 31. 2.16 (土) |
| 14 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎 | しなやかな心と体をはぐくむ保育 (仮) | 11. 9 (金) |
| 14 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎 | 学びを深める場をつくる～子どもの姿と教師の手立ってから探る～ | 31. 1.18 (金) |
| 15 お茶の水女子大学附属幼稚園 | 幼児の発達と学びの連続性を踏まえた幼稚園の教育課程 (3歳児～5歳児) の編成及び保育の実態とその評価の在り方についての研究開発 | 6.22 (金) 31. 2. 8 (金) |
| 16 山梨大学教育学部附属幼稚園 | 保育における子どもの声 (2年次) —対話する保育を目指して— | 6.23 (土) 12. 1 (土) |
| 17 新潟大学教育学部附属幼稚園 | 新たな世界を創り出す子供をはぐくむ—「統合的な学び」の実現を通して—第2年次 (幼小中一貫教育研究) | 5.30 (水) |
| 18 雷山人間発達科学部附属幼稚園 | 子どもの学びに着目した教育課程の再編 (2年次) | 6.21 (木) |
| 19 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 | 幼児期の教育における学びを探る～接続期カリキュラムの作成 (試案) ～ (仮) | 6.16 (土) 保育を語る会 11. 3 (土) 幼児教育研究会 31. 2.23 (土) 保育実践研究会 |
| 20 福井大学教育学部附属幼稚園 | つながりが育む学びの深まり～試す、工夫する、つくり出す遊びを求めて～ | 6. 9 (土) |
| 21 信州大学教育学部附属幼稚園 | 「遊びにうちこむ子ども」を育むための教育課程の編成 | 10.20 (土) |
| 22 上越教育大学附属幼稚園 | 遊び込む子ども (3年次) —教育課程の創造— | 10.10 (水) |
| 23 静岡大学教育学部附属幼稚園 | 豊かな自然環境を活かした保育 | 11.14 (水) |
| 24 愛知教育大学附属幼稚園 | 未定 | 11. 8 (木) |
| 25 三重大学教育学部附属幼稚園 | 夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助～幼小接続を意識した、3・4・5歳の学び～ | 31. 1.26 (土) |

| 幼稚園名 | 研究テーマ | 公開研究会等の期日 |
|----------------------|--|---|
| 26 滋賀大学教育学部附属幼稚園 | 「わくわくの創造」～幼児期から児童期への円滑な接続を図る指導の工夫～ | 11.16 (金) |
| 27 京都教育大学附属幼稚園 | 幼児の“探究力”を探る—3年次— | 31. 1.26 (土) |
| 28 大阪教育大学附属幼稚園 | ①主体的に生活する子どもを育むための教育課程の創造 (3年次) ②ひとりひとりの多様な可能性を伸ばす評価の在り方 (仮) | ①31. 1.26 (土) ② 11. 3 (土) |
| 29 兵庫教育大学附属幼稚園 | 保育の質を高めるために | 5.26 (土) 12. 1 (土) |
| 30 神戸大学附属幼稚園 | 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の充実 | 11.17 (土) |
| 31 奈良教育大学附属幼稚園 | 子どもたちの未来につながる楽しい保育の追及 | 未定 |
| 32 奈良女子大学附属幼稚園 | ①探究することも 協同することも 一幼小一貫した資質・能力を育成する教育課程— ②幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、同年齢や異年齢で協働的に探究を深め、多様な能力や個性的な才能を引き出す「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発 | ①31. 2. 9 (土) ② 11. 2 (金) 11. 3 (土) |
| 33 鳥取大学附属幼稚園 | いま伸びる力とあと伸びる力を育てる～遊びの充実をとらえて～ | 7. 7 (土) |
| 34 島根大学教育学部附属幼稚園 | 遊びこむ子どもを育てる | 11. 6 (火) |
| 35 岡山大学教育学部附属幼稚園 | 未定 | 11. 3 (土) |
| 36 広島大学附属幼稚園 | 持続可能な社会の担い手となるために、その基盤となる態度や資質・能力を明らかにし、「自然とのつながり」と「人とのつながり」の直接体験を通してそれらを育成する幼児期の教育課程の研究開発 | 10.31 (水) |
| 37 広島大学附属三原幼稚園 | 未定 | 12. 1 (土) |
| 38 山口大学教育学部附属幼稚園 | 幼小中の学びをつなぐ～「よりよい未来を共に創り出す人間」をめざして～ (仮) | 11. 2 (金) |
| 39 鳴門教育大学附属幼稚園 | 遊誘財から豊かな遊びを創り出すためにIV | 8.26 (日) |
| 40 香川大学教育学部附属幼稚園 | 保育する～子どもとつくる明日～ | 31. 1.25 (金) |
| 40 香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎 | 主体的・対話的で深い学びの生まれる保育 (2年次) | 31. 2. 1 (金) |
| 41 愛媛大学教育学部附属幼稚園 | 〈自己効力感〉が高まる学びを探る (3年間研究最終年次) —子どもの主体性を支え、育ちをつなぐ保育の充実— | 31. 2. 1 (金) 2. 2 (土) |
| 42 高知大学教育学部附属幼稚園 | よく考えて行動する子どもを育むための教育課程・指導計画 | 31.2月中 (4月のHPに掲載) |
| 43 福岡教育大学附属幼稚園 | 身近な自然と豊かにかかわる力を育む | 10.27 (土) |
| 44 佐賀大学教育学部附属幼稚園 | 自然に支えられた保育 | 31. 2.11 (祝) |
| 45 長崎大学教育学部附属幼稚園 | 遊びの中で育まれる自己肯定感～困難な経験を通して～ | 10.27 (土) |
| 46 熊本大学教育学部附属幼稚園 | 学びをつなぐ教育課程～幼児期にふさわしい評価の在り方を探る～ | 31. 2.15 (金) |
| 47 大分大学教育学部附属幼稚園 | 遊びを通した子どもの学び (仮) | 31. 1.26 (土) (予定) |
| 48 宮崎大学教育学部附属幼稚園 | 主体的・対話的な活動ができる子どもを育てる援助の在り方～教育課程の再編 (2年次) | 31. 2. 8 (金) |
| 49 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 | 子どもの育ちを共有し、小学校とのつながりを深める保育実践 | 12. 8 (土) 予定 講師の都合で12.7 (金)の可能性あり |



発行

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

事務局

東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL 042-329-7812 FAX 042-329-7814
Eメール yamayama@u-gakugei.ac.jp

